

2018年 JEAN 活動報告「海ごみ問題解決に向けた取り組み」



◆ 展示&海ごみトーク『美しい海をこどもたちへ』
 4/30～5/3の4日間、(株)アルパローザと(株)AR LABの協力で、東京・原宿のALBA ROSA LABで海ごみについての展示と、写真を使った海ごみトークを開催。あちこちの浜辺に流れ着いた貝殻・木の実・生き物の骨・ガラスびん・おもちゃなど、さまざまなものが「漂着」した会場内には、コアホウドリのヒナの死骸 3羽分から回収したプラスチックごみの実物を始めとする、困った漂着物＝海洋ごみのほか、漂着物のトランク・ミュージアム®や写真パネルも展示しました。



◆ NGO間の親交を深めた、台湾からの2回の招聘イベント
 ・4/23～25『2018 海岸ごみ評価技術ワークショップ/主催：荒野保護協会、グリーンピース台湾』。台湾の海岸漂着ごみ実態把握調査手法を検討するワークショップで、日本や韓国の海洋ごみ調査手法と活用事例紹介、台湾での調査手法の試行と、その改善策について意見交換を行ないました。
 ・5/5～6『2018 宜蘭県気候変動へ挑む戦い - 海洋廃棄物フォーラム/主催：宜蘭県政府』。テーマ1の「プラスチックスープの海：拡大する海洋廃棄物」のセッションで「人工の海洋-プラスチックの廃棄物が海を脅かす」と題して講演し、同時開催中の2018 宜蘭グリーンエキスポで海洋ごみに関する展示も見学。参加NGOみんなで、現地NGOにとっておきの海岸へ案内してもらいました。



◆ 海洋プラスチック憲章への署名を求めるウェブ署名と請願提出
 近年、国際的な動きが次々と出てきた海洋プラスチックごみ問題。経済協力や安全保障が主な議題のG7サミットでも世界的課題として取り上げられるようになり、2015年のドイツ・エルマウサミットでは、対処のための行動計画が付属書として採択されました。2018年には、カナダ・シャルルボアサミットで『海洋プラスチック憲章』が提案され、行動計画による対策を国内で推進してきた国々はこの憲章に署名しましたが、日本とアメリカは拒否しました。そこでJEANは、日本政府に一日も早い『海洋プラスチック憲章』への署名を求めて、内閣総理大臣と環境大臣あてのオンライン署名活動を行ない、7/20～12/17の間に寄せられた署名とコメントを、環境省に12/20提出しました。



◆ LUSHとの海洋プラスチック問題解決のためのコラボレーション
 ・手作りコスメの(株)ラッシュジャパンが、6/8の世界海洋デーにあわせて東京でトークイベント【Soapbox：海洋プラスチックごみについて知り、くらしに変化を起こそう】を開催。JEANの写真パネルや漂着物のトランク・ミュージアム®が展示された会場で、小島がゲストスピーカーとしてお話しをしました。
 ・JEAN活動紹介の動画制作をと提案いただき、大量の漂着ごみに苦労しながらも積極的に対応を進めている長崎県対馬で撮影を実施。5分弱の作品にまとめられて、LUSHウェブサイトで公開されました。
 ・署名活動に参加して展開してくれていた署名キャンペーンの一環で、9/23～24にイギリスのマンチェスターで開催されたグローバルイベント「Lush Showcase 2018」に、チャリティパートナー団体として招待され、吉野がトークショーで署名活動「日本政府は『海洋プラスチック憲章』に一日も早く署名を！」への参加を呼びかけました。



◆ JEANのウェブサイトの情報
 「美しい海を子どもたちへ」一般社団法人 JEAN <http://jean.jp/>
 一般社団法人 JEAN (facebook) <https://www.facebook.com/JEAN.cleanup/>
 海ごみプラットフォーム・JAPAN (facebook) <http://www.facebook.com/malipjapan/>



後援：海上保安庁、環境省、国土交通省、水産庁
 発行：一般社団法人 JEAN
 〒185-0021 東京都国分寺市南町3-4-12 マンションソフィア 202
 TEL：042-322-0712 FAX：042-324-8252 E-mail：cleanup@jean.jp

International Coastal Cleanup 2018

国際海岸クリーンアップ2018 結果概要

クリーンアップキャンペーン全体報告
 2018年のクリーンアップには、北は北海道から南は沖縄県まで433会場に延べ27,634人が参加し、213kmの海岸、河岸、湖岸、水中および内陸から、78トンのごみが回収されました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



国際海岸クリーンアップ (International Coastal Cleanup : ICC) とは
 海のごみ問題は、拾うだけでは決して解決しません。それはいくらごみを回収しても、新たなごみが繰り返し発生し、漂着するためです。「国際海岸クリーンアップ (ICC)」(実施期間：9～10月)は、アメリカの環境NGO オーシャン・コンサーバンシーが提案する世界共通の手法で、ごみの内容を調査し、ごみの問題点を参加者一人ひとりに気づいてもらいながら改善するための方策を探る活動です。これから先もずっとごみを拾い続けるのではなく、私たち自身がごみを減らさなければ海ごみ問題は解決しないことを、参加者一人ひとりに理解してもらうことが目的です。